

令和7年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会  
特別支援報告書

内容

各園の先生方のとても丁寧な取組を見せていただき、感動しました。

就学前の子どもたちは、ことばを聞いて理解したり、ことばで伝えたりすることがまだまだ難しい発達段階です。ただでさえことばでのやりとりが難しい子どもたちのために、ことばだけに頼らない保育・教育を実践されてきたからこそ、特別支援教育との親和性は高いと感じています。つまり、障害や特性のある子どもたちにとって過ごしやすい素地があるということです。以下がその例です。

- ・マークやシールで、子どもの持ち物や位置を示すこと
- ・写真やイラストで見せること
- ・柵やタオル掛けなどを使い、場を区切ったり、動線を示したりすること
- ・音楽やピアノを手掛かりに活動に気付かせること
- ・繰り返して習慣化することで、子どもの理解が進むこと
- ・遊びと生活を中心に発達を促すこと など

このような環境調整を基盤とした上で、個に応じて支援をするのが望ましい姿です。集団から離して個別で対応することが特別支援ではありません。また障害は、その子どもの内側にあるものではなく、環境や社会の狭さとの間に生じるものです。ゆえに、子どもの集団において、障害や特性のある子どもたちが「どうすれば『みんなと』できるのか」ではなく、「どうすれば『みんなと』できるのか」、そんな方法を今後も一緒に考えていけたらと思います。